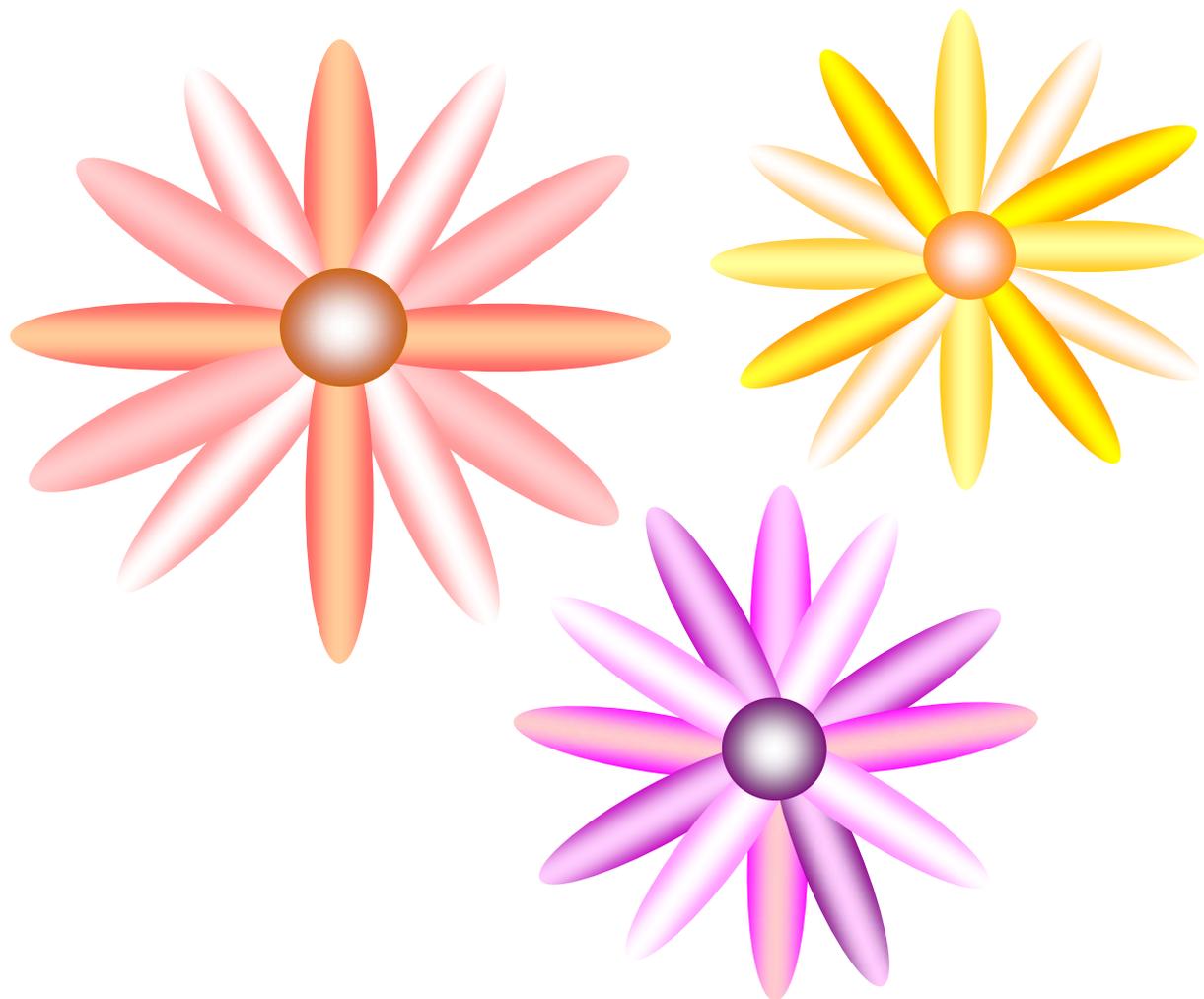


Let's challenge!!

楽しく話そう!!!

－「話す・聞く」力を伸ばすために－



秦野市教育研究所

はじめに

秦野市教育委員会教育長 金子 信夫

「今日の授業、おもしろかったな」「もっとやりたいな」
授業が終わった後、笑顔いっぱいの子どもたちにこんな言葉を言ってもらえたなら、教師冥利に尽きるというものです。

『The great teacher inspires.』

まさに、教師が子どもの心に火をつけた瞬間です。

しかし、学校現場では、社会情勢の変化に伴った様々な教育課題への対応に追われ、『授業に情熱を注ぐ』という教師本来の使命を果たせない状況が増えています。また、幼稚園から小学校、小学校から中学校へスムーズに順応できない子どもたちが増え、生き生きとした笑顔の子どもたちが少なくなったと感じるのはわたしだけでしょうか。

新学習指導要領の理念でもある、『生きる力』とは何なのかを改めて考えたとき、わたしたち教育に携わるものは、「小学校だから」「中学校だから」と、年齢で輪切りにした教育ではなく、校種を超えて、長い目で子どもたちを見つめていく必要があります。そして、改めて子どもたちの連続した発達を理解していくと同時に、子どもたちそれぞれの発達段階に対応したカリキュラムを編成し、弾力的に活用できる学習環境を創っていこうとする姿勢が求められています。

このような中、秦野市教育委員会におきましても、今年度より、小中一貫教育研究部会を立ち上げ、系統的な学びの充実を図るべく、教材研究を進めてきました。

本研究冊子は、新学習指導要領の重点課題である「言語活動の充実」を視野に、国語科の「話す・聞く」分野を取り上げ、小学校から中学校の9年間を見通した言語力の育成を目指し作成しました。コミュニケーション能力が育ちにくい環境にいる現代の子どもたちが、言葉に対する感性を磨き、自分の考えとは違う考えを受け入れつつ、自分の考えをどうどうと述べることができる言語力を身につけていくことが、生きる力の育成につながっていくと確信しています。

平成23年3月

目次

はじめに	1
目次	2
学習プログラムの展開例	3
この本の内容と使い方	4

スピーチ

1	なんでしょうゲーム	6
2	クラスビンゴ	8
3	失敗相談をしよう	12
4	写真を見せながらスピーチをしよう	16
5	テーマを決めて自分の考えを話そう	22
6	自己PRスピーチをしよう	28

話す・聞く

7	メモメモ大作戦	32
8	風が吹けばおけ屋がもうかるゲーム	34
9	みんなに伝えよう	36
10	わかりやすく話そう	40
11	職場体験学習の活動報告をしよう	44
12	ハンバーガーショップを出店するなら	48

ディベート

13	「きゅうしょくかおべんと	52
14	「そうじはみんなですべきか	56
15	「小遣いは定額制かお手伝いの報酬制か」	60
16	「部活動は全員参加にすべきか」	70
17	「新聞は必要か」	71
18	「救急車は有料にすべきか」	72
	ディベート資料	85

おわりに	86
------	----

学習プログラムの展開例

展開例一覧

No.	プログラム	学年	ワンポイント紹介	学習時間
スピーチ				
1	なんでしょうゲーム	低学年～	「わたしはなんでしょう」の教材を使いながら、身近なものに興味を持たせ、楽しんでスピーチ力をする力をつ	1時間
2	クラスビンゴ	中学年～	ビンゴゲームをしながらインタビューを行い、それをもとに友だちをクラスの仲間に紹介します。和気あいあいと楽しめるスピーチです。	3時間
3	失敗相談をしよう	高学年～	「あ、そんな失敗あるある」という誰にでもある体験談をスピーチします。	3時間
4	写真を見せながらスピーチをしよう	中学1年～	テーマにそって撮った写真を見せながら、スピーチをします。写真の撮り方や提示の仕方などでいろいろな工夫をすることができます。	5時間
5	テーマを決めて自分の考えを話そう	中学2年～	関心のあるテーマについて記事を集め、比較したり身近な話題を追加したりしながら、自分の考えを述べます。	5時間
6	自己PRスピーチをしよう	中学3年～	高校受験や就職試験で自分のいいところをアピールする力を伸ばします。	2時間
話す・聞く				
7	メモメモ大作戦	低学年～	よく聞いてメモを取る練習のためのアイデアです。	1時間
8	風が吹けばおけ屋がもうかるゲーム	中学年～	話を聞いてイメージを膨らませ、わかりやすく伝えるための練習です。「○○すれば・・・」の続きを考えましょう。	1時間
9	みんなに伝えよう	高学年～	学校を楽しく過ごせるよう、いろいろな提案を考えてほしいです。より説得力のある資料提示、根拠を示しながらグループで提案を考えてください。	4時間
10	分かりやすく話そう	高学年～	自分が見ているものや気持ちを相手にどのように的確に伝えるか、伝えるためのテクニックを体験的に学習する教材です。1時間でできるので「この時間なにをやるか」というときに有効な教材です。	1時間
11	職場体験学習の活動報告をしよう	中学2年	職場体験学習の活動報告などを視聴覚機材を使ってプレゼンテーションする教材です。視聴覚機材を使ったプレゼンテーションの効果を体験することができます。	2～3時間
12	ハンバーガーショップを出店するなら	中学3年	場面設定は実際の営業の仕事にもありそうな設定になっています。子どもたちのアイデアも素晴らしいヒントがあるかもしれません。現役の経営者や営業職の方にアドバイスをもらえるとより効果的でしょう。	1時間
ディベート				
13	きょうしゅくか おべんとうか	低学年～	初めてのディベート。意見を変えた場合は席を移動してもよいなど、低学年向けにアレンジしています。	2時間
14	そうじはみんなですべきか	中学年～	学校生活の中のことをテーマに、ディベートを行います。相手を説得するにはどうしたらよいか、少しずつ本格的なディベート形式を学びます。	2時間
15	小遣いは定額制かお手伝いの報酬制か	高学年～	身近な話題をもとに、それぞれのメリット・デメリットを考えさせます。	7時間
16	部活動は全員参加にすべきか	中学1年～	部活動という、中学生にとって学校生活の中で大きな関心をもつものをテーマにディベートを行います。「勝つこと」などにアレンジしてもおもしろいです。	5時間～
17	新聞は必要か	中学2年～	少しずつ視野を広げ、自分の考えを深めていく話題を選びました。客観的な資料を集め、意見を補足する練習にもなります。	5時間～
18	救急車は有料にすべきか	中学3年	社会的な問題について、客観的な資料をもとに多角的にとらえさせます。討論も入り、本格的なディベート形式です。	5時間～

※ 指導略案「学習活動の流れ」に記載されている○数字は、時間数をあらわしています。

※ 一応、対象学年を記載していますが、便宜的な分類ですので、学級の実態に合わせてご利用ください。

この本の内容と使い方

国語の学習をするときに漢字や文章読解、文法などの教材はたくさんあるのに、「話す・聞く」に関する教材が少ないと感じたことはありませんか。

本書は楽しく「話す・聞く」の学習ができるような教材をまとめました。「スピーチ」「話す・聞く」（話し方のテクニック）「ディベート」の3ジャンルで構成されています。対象学年を小学校は低・中・高学年、中学校は1・2・3年の6段階に分けて編集していますが、便宜的な分類なので学級の実態に合わせて使用してください。

「ディベート」に関しては、できるだけ取り組みやすいように多少のアレンジを加えています。また、ワークシート・テーマ例等資料を掲載していますのでぜひ参考にしてください。

「Yes か No か」式のほうがディベートとしては焦点を絞りやすく取り組みやすいですが、「A か B か」式もおもしろいものがあります。小学校低学年は学校生活や身近な話題から始め、中学生は社会的な問題まで段階的に行うことで、視野を広め客観的な資料をもとに説得力のある考え方・話し方を身につけることができます。また、ゲーム形式で勝ち負けがあることから、児童・生徒は驚くほど熱心に取り組みます。ぜひ積極的に国語学習に取り入れていただきたいと思います。ディベートテーマ例については巻末に掲載されていますので、ご活用ください。

冒頭に「学習プログラムの展開例」として「プログラム」と「ワンポイント紹介」の一覧表を掲載しました。ジャンル、ワンポイント紹介、時間数などを参考にして、授業の実態に合わせて適宜ご利用ください。

本書は「すぐに使える教材！」を目標に編集しました。指導略案と同時にワークシートや参考資料を掲載してありますので、そのまま印刷して、またはアレンジしてご活用ください。

また、教科書の内容とあまりかけ離れないようにしています。発展学習や予備学習の教材として利用してください。「あっ、これ使える！」と多くの人に利用していただければ幸いです。



スピーチ

ねらい : 一つのものについて、相手に分かりやすく説明する力をつける。

対象 : 小学校 低学年～

授業時間 : 学習の合間や導入として

準備 : 「なんでしょうスピーチ」(P7)

▼学習活動の流れ

○出題内容を考え、生活の中で工夫して

ゲームを行う。

- ・毎日一人ずつ
- ・日直からの問題として
- ・朝の会や国語の導入として



▼支援（・） 留意事項（◎）

◎学習の動機付けになるように、例題となるような問題を出す。

＜出題例＞答えが鉛筆の場合

「私は木でできています。」

「毎日ランドセルで運ばれます。」

「字を書く時に使います。」

「私はなんでしょう。」

◎子どもたちが答えが出しやすく、全員がわかるような問題を出題する。

- ・学習内容を受けて、習慣的に繰り返す。
- ・児童にとって身近なものを出題するようにし、「みんながわかるもの」という約束を作る。
- ・わからない時には、質問をするなど、答えを導けるようにする。
- ・良いところを発表することで、意欲づけを行う。

なんでしょうスピーチ

なまえ ()

書くことのヒント

わたしは、ぼくは、・・・

☆ ^{かたち}形は？

☆ ^{いろ}色は？

☆ ばしょ？

☆ ^{つく}作られているもの

☆ つかいかたは？

など



ねらい : 人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり、理解したりする力を育てる

対象 : 小学校 中学年～

授業時間 : 3時間

準備 : 「クラスビンゴ表」(P9)、「インタビューシート」(P10)
「評価カード」(P11)

▼学習活動の流れ

①学習内容を理解する。

○指導者の説明を聞き、ビンゴゲームのやり方を理解する。

○クラスビンゴのやり方を聞き、表に記入する。

○インタビュー形式で友だちに質問する。

- ・「こんにちは。あなたはニンジンが好きですか？」
- ・ニンジンを好きな人がいたら、その人の名前をクラスビンゴ表に記入する。

②仲間をみんなに紹介する。

○「〇〇さんは、こういう人です。」とインタビューシートをもとに紹介する。

- ・Aさんを紹介します。Aさんはいつもうどんを食べているということが分かりました。私もうどんが大好きです。

③よい発表例を聞き、共有する。

▼支援(・) 留意事項(◎)

・一般的なビンゴを行うなど、楽しく学習に入れるようにする。

◎クラスビンゴ表を配る。

※高学年で行う場合は、ビンゴが成立するような内容でみんなに共通するような質問を考えさせてもよい。

◎質問、会話の中では、「こんにちは」「ありがとう」の言葉かけを必ず行うように指導する。

◎なるべく違う友だちにインタビューするよう助言する。

◎質問は、前半、後半に人数を分けるなどできるだけ多くのコミュニケーションがとれるように配慮する。

・ビンゴの中から、さらに質問をしたいことをインタビューシートに記入し、クラスの他の人に紹介できるように準備をさせる。

◎発表しやすいように、発表の簡単な文型を示しておく。

・評価カードで話し方や自分の聞き方について評価させる。

クラスビンゴ表

相手にたずねる^{しつもんないよう}質問内容を考えて、ビンゴ表に記入しましょう。ビンゴが成立したら、席にすわりましょう。

嫌いな食べ物は ()です。	好きなスポーツは ()です。	好きな科目は ()です。
相手の名前 ()	相手の名前 ()	相手の名前 ()
今一番欲しいものは、 ()です。	いま一番楽しいことは ()です。	私は()が得意です。
相手の名前 ()	相手の名前 ()	相手の名前 ()
誕生日は、()月です。	好きなテレビ番組は、 ()です。	苦手な科目は ()です。
相手の名前 ()	相手の名前 ()	相手の名前 ()

インタビューシート

名前()

ビンゴがそろったら、答えてくれた友達にもう一度質問^{しつもん}してみましょう。

(例) 私は () さんについて みなさんにしょうかいします。

(例) () さんは、() が好きです。

<p>^{しつもん}質問すること①・・・</p> <p>()</p> <p>^{しつもん}質問①に対する答え・・・</p> <p>()</p>
<p>^{しつもん}質問すること②・・・</p> <p>()</p> <p>^{しつもん}質問②に対する答え・・・</p> <p>()</p>
<p>^{しつもん}質問すること③・・・</p> <p>()</p> <p>^{しつもん}質問③に対する答え・・・</p> <p>()</p>
<p>私の () さんにインタビューした感想は・・・</p>

クラスビンゴ ひょうか 評価カード

年 組 名前()

スピーチした人【 】さん

スピーチでしようかいした人【 】さん

評価

【話し方について】	評 価				
① 声の大きさはどうでしたか	5	4	3	2	1
② 話すスピードはどうでしたか	5	4	3	2	1
③ 顔をあげ、みんなを見ているか	5	4	3	2	1
【内容について】	評 価				
① 友だちをしっかりとしようかいできていますか	5	4	3	2	1
② 文と文のつながりはおかしくないですか	5	4	3	2	1
③ 聞いていておもしろかったですか	5	4	3	2	1

コメント

自分の(聞く側)評価

【聞き方について】	評 価				
① 相手の目をみて話を聞いた	5	4	3	2	1
② 質問することを考えながら聞いた	5	4	3	2	1

ねらい : 話し合いの目的や順序を確かめながら、話題に沿って話し合う。

対象 : 小学校 高学年～

授業時間 : 3時間

準備 : 「失敗談カード」(P13)、「アドバイスシート」(P14)
「評価カード」(P15)

▼学習活動の流れ

①学習内容を伝える。

○教師の失敗談を聞き、話し合いのテーマをつかむ。

○自分の失敗談を失敗談カードに記入する。

- ・いつ ・どこで ・何を
- ・どのようにして ・どう思った

②自分の失敗談をグループ内で発表する。

○班の他のメンバーは、「何故そういう失敗がおこったのか」「失敗を防ぐためにはどうすればよいか」をアドバイスする。

○友だちからのアドバイスを失敗談カードにメモする。

③友だちからのアドバイスをもとに自分の失敗とその対応策、感想についてスピーチを行う。

○振り返りをする。

▼支援（・） 留意事項（◎）

・教師の身近な失敗談を紹介し、学習の見通しを持たせたい。

・失敗談カード発表の簡単な型を示しておき、活用できるようにする。

◎最初から全体の場ではなく、少人数の話しやすい雰囲気のもと、発表を進める。

◎一人が失敗談を発表している間、他のグループ員は、「何故そういう失敗がおこったのか」「失敗を防ぐためにはどうすればよいか」をアドバイスシートに簡単にメモさせる。

◎役割は交代して行い、相手の意見を受けて自分の考えをより明確にさせたい。

・自分の失敗とその原因、対処の仕方について、友だちのアドバイスを受け自分なりに考えまとめ発表する。

◎評価カードで話し方や自分の聞き方について評価させる。

失敗談カード

名前()

私の失敗談を紹介します。※自分の経験した失敗を書きましょう。

(いつ)

(どこで)

(何を)

(どのようにして)

(どう思った)

失敗の原因は・・・相談員からもらった意見を書こう

予防策は・・・相談員からもらった意見を書こう

アドバイスを受けてこれからの自分の考えを書こう

アドバイスシート

名前()

友だちの失敗相談にアドバイスができるよう、簡単なメモをとりましょう。

()さんの 失敗談について
感想 . . .
原因は . . .
予防策は . . .

()さんの 失敗談について
感想 . . .
原因は . . .
予防策は . . .

()さんの 失敗談について
感想 . . .
原因は . . .
予防策は . . .

失敗体験を話そう 評価カード

年 組 名前()

スピーチした人【 】さん

テーマ【 】について

評価

【話し方について】	評 価				
① 声の大きさはどうでしたか	5	4	3	2	1
② 話すスピードはどうでしたか	5	4	3	2	1
③ 顔をあげ、みなをみているか	5	4	3	2	1
【内容について】	評 価				
① 自分の体験をしっかり話すことができましたか	5	4	3	2	1
② 文と文のつながりはおかしくないですか	5	4	3	2	1
③ 聞いていておもしろかったですか	5	4	3	2	1

コメント

自分の(聞く側)評価

【聞き方について】	評 価				
① 相手の目をみて話をきけた	5	4	3	2	1
② 質問することを考えながらきけた	5	4	3	2	1

4

写真を見せながらスピーチしよう

ねらい : 写真を通して、より話し手と聞き手との距離を縮める
スピーチの工夫、視点の工夫を図る

対象 : 中学校 1年～

授業時間 : 5時間

準備 : デジカメで撮影した写真(雑誌の写真、過去に撮影した写真、実物など)、
「スピーチメモ」(P17)、「評価シート」(P18またはP19～P20)

▼学習活動の流れ

①学習内容を伝え、テーマを考えさせる。

○デジカメでスピーチのテーマに合ったものを撮影しておくように指示をする。

②写真を基に、スピーチメモを作る。

③④当日、印刷した写真を見せながら 100秒スピーチをする。

○聞き手は写真と話し手を見ながら聞き、評価をする。(時間が許せば質疑応答をするのもよい)

⑤振り返りをする。

<テーマ例>

- ・お気に入りのもの、または、とっておきのもの
- ・身近な風景
- ・意外と気づかないもの
- ・大アップ(これ、な～んだ)
- ・学校からの帰り道で見つけたもの
- ・コレクション(同じものをたくさん撮る)
- ・私の家族
- ・学校内の穴場(ここ、ど～こだ)

▼支援(・) 留意事項(◎)

◎デジカメは各自の物を使い、印刷したものを用意させる。(デジカメがない生徒については、雑誌の写真や、過去に撮った写真、または実物でも可とする)

◎テーマは、各自選ぶ。

◎撮影上の注意をきちんと行う。

- ・他人やよその家を無断で撮らない
- ・よその敷地や危険な箇所に入らない等

◎スピーチメモは箇条書きにし、文章で書かせない。

◎スピーチをするときの指導を行う。

- ・話す姿勢、声の大きさなど
- ・敬体(です・ます)で話すことなど

◎評価は評価シートを使って行う。(2種類のうちどちらかを使う)

- ・話し方の評価(声の大きさ、速さ、高低など)
- ・話題の面白さ、写真の面白さの評価



<スピーチメモ>

テーマ：写真を見せながらスピーチしよう

年 組 番 氏名()

★選んだテーマ【 】

★撮影したもの【 】
もう少し詳しいデータ…

★なぜそのテーマにしたのか

★アピールしたいところ

★話の組み立てを考えよう

①導入1…聞いている人をひきつけよう

②導入2…説明しよう
〔テーマや、撮影したものについて〕

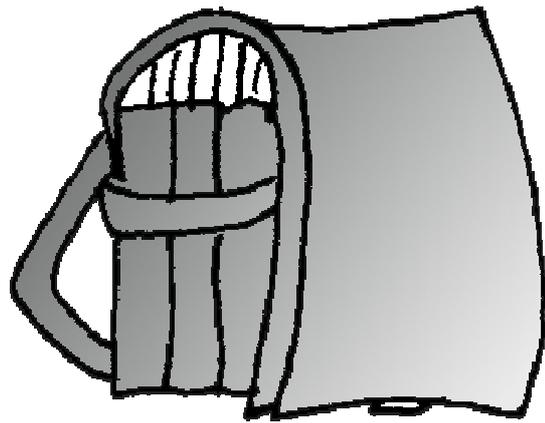
③展開…注目すべきところは？

④まとめ…自分らしくまとめよう

★話すときに意識すること

	氏名	テーマ	大きさ 高さ	速さ	見ているか	表情	テーマ と写真	組み立て	分かりやすい	興味深い	コメント
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
31											
32											
33											
34											
35											
36											
37											
38											
39											
40											

<スピーチの授業を振り返って>



5

テーマを決めて自分の考えを話そう

- ねらい : 関心のあるテーマについて、情報を集める
自分の考えを的確に表現し、伝える聞き手を納得させるための話し方を学ぶ。
- 対象 : 中学校 2年～
- 授業時間 : 5時間
- 準備 : ワークシート「テーマを決めよう!」(P23)、「スピーチメモ」(P24)
「評価シート」(P25 または P26～P27)

▼学習活動の流れ

①次のテーマ例を参考にし、テーマを決めて新聞記事を集める。

(一週間～一か月ほど)

- <例> ・環境問題 ・福祉
・家族 ・地元の問題
・食 ・スポーツ
・イベント ・祭り
・ほのぼのした話題
・流行 ・言葉 ・働く

<一週間ほど間をあげ、資料を集めさせる>

②集めた資料をもとに、スピーチメモを作る。

③④新聞記事をいくつか選び、その内容について自分の意見を3分間で述べる。

<ポイント>

- ・2つ以上の記事を比較すること
- ・自分の身近な話題を追加すること
- ・自分の意見をはっきりと述べること

○聞き手は評価をしながら聞き、感想を記入する。

⑤振り返りをする。

▼支援(・) 留意事項(◎)

◎ワークシートに、切り抜きを貼らせ記事を読んだ感想を書かせておく。

◎比較できる記事、違いがはっきりしている記事を選ぶようにアドバイスする。

◎同じテーマで自分の身近にあること、起きていることを思い起こさせる。

<例>

食・・・ ファストフード、昼食、コンビニ弁当など

◎自分の意見を明確にして話すようにさせる。

・賛成か反対か ・提案 ・批評

◎話の組み立てを意識させる。

- ①新聞記事の紹介
- ②二つの記事の違いについて
- ③自分の意見
- ④まとめ

◎評価カードについては、2種類のうちどちらかを使う。

<スピーチメモ>

テーマを決めて自分の考えを話す

年 組 番 氏名()

★選んだテーマ【 】

★なぜそのテーマにしたのか

★新聞記事1【 】
要約…

新聞記事2【 】
要約…

★身近な話題を足し、自分の考えをまとめよう(賛成・反対・批評など)

★話の組み立てを考えよう

①導入1…聞いている人をひきつけよう

②導入2…説明しよう
〔記事の紹介・2つの記事の違い〕

③展開…自分の意見を述べよう

④まとめ…自分らしくまとめよう

★話すときに意識すること

氏名	テーマ	大きさ 高さ	速さ	見ているか	表情	比較	自分の 意見	組み立 て	分かり やすい	興味深 い	コメント
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
31											
32											
33											
34											
35											
36											
37											
38											
39											
40											

<スピーチの授業を振り返って>

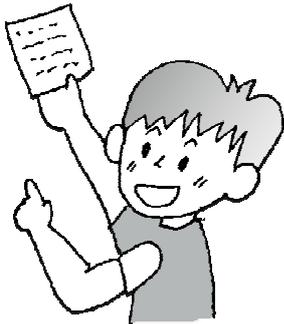
自己PRスピーチをしよう

- ねらい : 自分自身を見つめなおし、知ってもらいたいよい点をアピールする。
- 対象 : 中学校 3年
- 授業時間 : 2時間
- 準備 : 「自分のPRポイントのみつけかた」(P29)、「スピーチメモ」(P30)ポストイット

▼学習活動の流れ

①自分自身を振り返り、自己PRポイントを見つける。

- 本時のねらいと流れを確認する。
- 「ウェビング」を使って、PRポイントの発想を広げていく。



- 「座標軸」にポストイットを並べていく。
- 「効果的なスピーチのポイント」を参考にしてスピーチメモを作る。

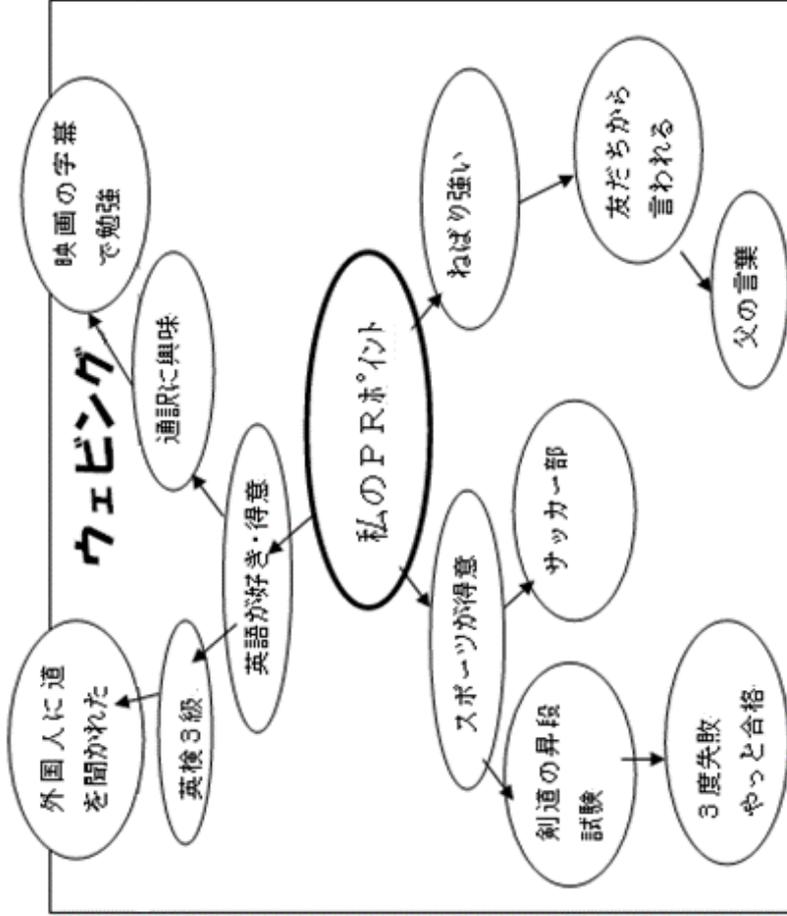
②グループに分かれて、自己PRスピーチをする。

- 友だちのスピーチを聞いて、話し方のよい点、工夫されていた点などを話し合い、自分のスピーチに生かす。

▼支援（・） 留意事項（◎）

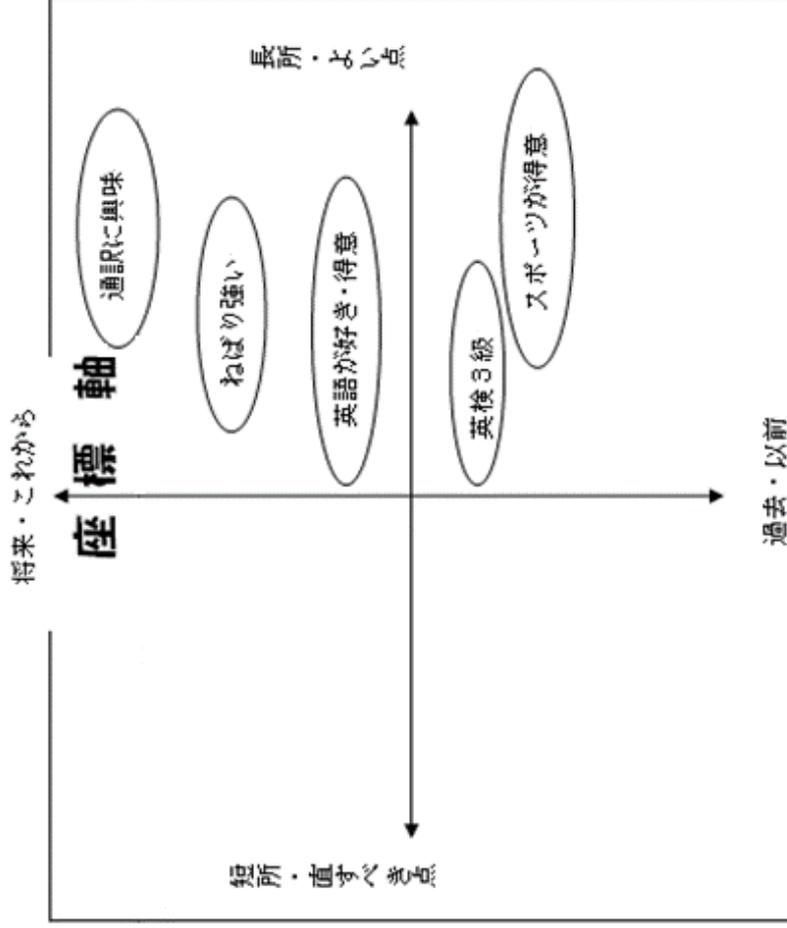
- ・自分のPRポイントを「ウェビング」で見つけ、「座標軸」に並べて整理させる。
- ◎「ウェビング」「座標軸」の作成方法については、「自分のPRポイントのみつけかた」を配り説明する。
※模造紙に書いて、黒板に提示してもよい。
- ◎事前に家族の意見を聞いたり、友だちのアドバイスを参考にしたりするように助言する。アドバイスはよい点に注目するとよいことを伝える。
- ・「ウェビング」で見つけたPRポイントを「座標軸」に並べさせ、自分のよい点やこれからの希望等について整理させる。
- ・友だちのスピーチを聞いて、話し方のよかった点、よく工夫されていた点などを話し合わせる。

自分のPRポイントのみつけかた



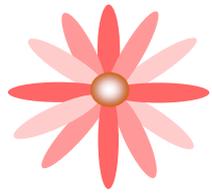
ひとつのキーワードから連想される言葉をクモの巣の糸のようにつないで、発想を広げていく方法。

関連性を考えながら、ことばどうしを結びつけていく。



ふたつの観点を、縦と横の座標軸に据え、それぞれの観点がどう組み合わせられていくかということから、発想を広げていく方法。

どのような観点を座標軸に据えるかで、発想はさまざまな方向に広がる。



話す・聞く

ねらい : 大事な事柄を落とさないように気をつけながら、話を聞く力を育てる。

対象 : 小学校 低学年～

授業時間 : 学習の合間や導入として

準備 : ワークシート「メモメモ大きくせん」(P33)

※(1)～(4)の観点を变えて活用可。

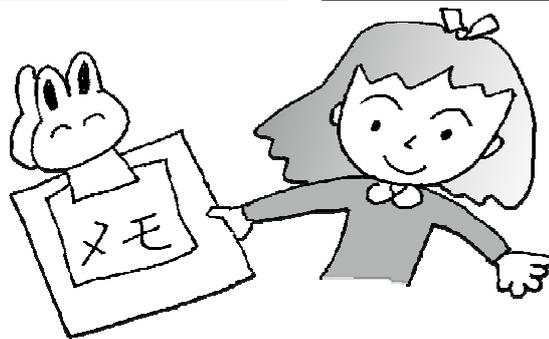
※例として、「スイミー」の話を聞く際のワークシートを作成しました。

▼学習活動の流れ

- メモメモ大作戦のルールを知る
 - ・教師の話をメモしながら聞く。
 - ・先生の質問に答える。
- 先生の話を書く。
 - ・教科書の話や、絵本など。
 - ・生活目標など身近なもの。
 - ・日直スピーチなど子どもの話。
- 先生問題の選択肢の中から答えを見つける。
- 選択肢のない先生問題に答える。

▼支援(・) 留意事項(◎)

- ・ゲーム感覚で「聞くこと」を楽しむようにさせる。
- ◎初めは、「聞く」ポイントとなる観点を記入したワークシートを用意し、メモするようにする。
- ◎メモが大変な場合は、耳だけで聞くようにさせる。
- ◎慣れてきたら、問題の選択肢をなくすなどして、難易度を高くする。
- ◎観点に沿ったメモが取れるようになってきたら、自分の力で大事なことをメモする練習につなげていく。



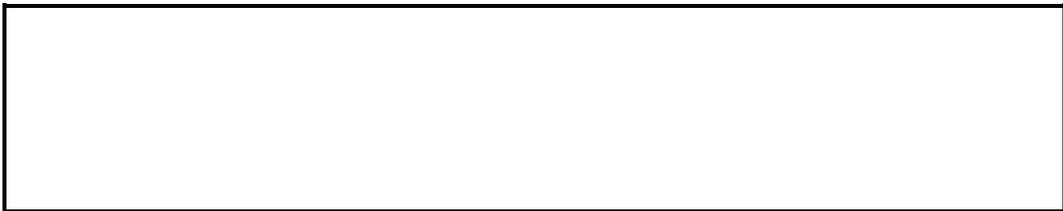
ワークシート ☆メモメモ大さくせん☆

題名「 スイミー 」

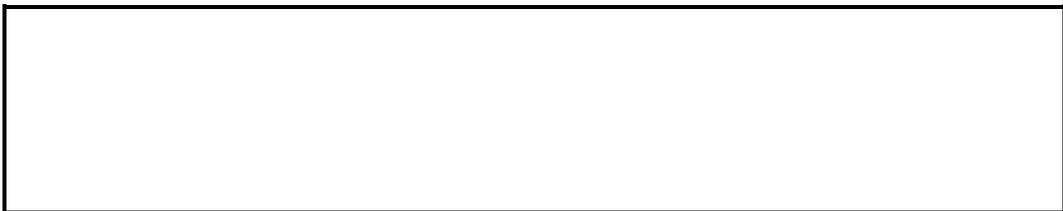
(1) スイミーの住んでいる場所



(2) スイミーの色



(3) 赤い魚をのみこんでしまったもの



(4) スイミーが見つけたすばらしいもの



ねらい : 前のイメージをつなぎ、新たなイメージを付け加えることができる力をつけることで、説明力を育てる。

対象 : 小学校 中学年～

授業時間 : 学習の合間や導入として

準備 : 「風がふけばおけ屋がもうかるゲーム」(P35)

▼学習活動の流れ

○ことわざ『風が吹けば桶屋がもうかる』の意味を知る。

○ゲームのやり方を知る

- (1) 1番目に教師が「○○すれば…」のお題を出す。
- (2) お題の続きになる言葉を考え、後ろの人に伝える。

○列でゲームをする。

○できあがった内容を発表する。

*低学年で行う場合は下記の方法もある。

- ①初めの言葉を1番に渡す。
- ②1番はそれを見て、短冊に続きを書き、2番に自分の書いた短冊を次に渡す。
- ③2番もその短冊を見て続きを書き、自分の書いた短冊を次に渡す。(繰り返し)
- ④最後に、黒板に貼って、一番思わぬ結果になったものを選ぶ。

▼支援(・) 留意事項(◎)

内容：大風で砂ぼこりがたち、(目に入って)目の不自由な人が増える。昔の目が見えない人は三味線をひくことを仕事にした。そのため三味線に張る猫の皮が必要になり、猫が減り、さらにネズミが増えて桶をかじるので、桶屋が繁盛する。

- ・「思わぬ結果が生じる、あるいは、あてにならぬ期待をすることのたとえ。」ということを押さえ、全く関係ない2つの事柄を結びつけるための、内容を考えさせる。
- ・「砂埃で目が不自由な人が増える」のような大げさなことでも良いことを確認する。
- ・友だちにはっきりと分かりやすい言葉を伝えるように声をかける。
- ・友だちから聞いた言葉をメモして良いことを伝える。

◎思いつかない子には「○○したら、どうする？」など声をかける。

◎具体的に感情などではなく、行動を考慮ようにする。

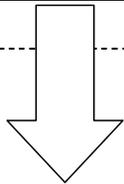
◎直前の言葉以外が分かると、似たような内容になってしまうので、直前の言葉以外が分からないように配慮する。

※ 発展として、リレー作文につなげることもできる。また、絵などでつないだりしてもよい。

『風がふけばおけ屋がもうかる』
ゲーム

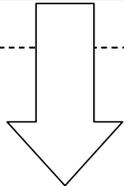
名前 ()

①



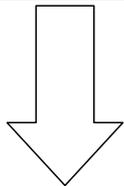
②の子は、自分のことばを書いたら、↑を やまおりにする。

②



③の子は、自分のことばを書いたら、↑を やまおりにする。

③



④

ねらい : 伝えたいことをどのように伝えるかをグループで協力して考え、形にして発表する。

対象 : 小学校 高学年～

授業時間 : 4時間

準備 : 低学年が遊んでいる写真、アンケートなど、発表の道具、ポスカ、画用紙等、「交流計画を立てよう」(P37)、「提案書」(P38)、「評価カード」(P39)

▼学習活動の流れ

①学習目標、手順など教師の説明を聞く。

- 自分の経験を思い出し、低学年に喜んでもらえるような交流を考える。(個人)
- グループの中で自分の考えを発表する。

②グループで一つの意見に絞り、発表の準備、方法を考える。

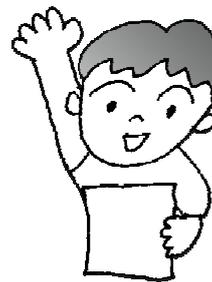
- 選んだ根拠を明確にし、交流の場所、時間、魅力ある内容について検討する。
- 低学年にインタビューやアンケートを取り、発表の根拠をとる。
- 掲示物や話し方の工夫についてアイデアを交換する。

③提案書をつくる。

④グループごとに発表する。

- 聞く側も、発表者の効果的な発表をメモする。
- 他のグループや教師に評価をしてもらい、コメントをもらう
- 振り返りを行う

▼支援(・) 留意事項(◎)



◎学習の手順の説明をする。

(②～④まで)

1. 小グループに分かれる。
2. グループ内で発表し、意見を一つに絞り、計画表を記入する。
3. グループの発表の役割分担、準備をする。
4. 発表をする
5. 他のグループや教師のコメントを聞く。
6. 評価カードに感想を記入する。

◎「低学年に喜んでもらえるか」という観点で提案書を作るよう助言する。

- ・違った見方、考え方はないかを、多角的に考えさせる。

- ・それぞれの提案のよいところ、疑問点などを評価カードに記入するよう促す。

交流計画を立てよう」

わたしの考える低学年との交流を提案します

(こんな)

交流をしよう

低学年が喜んでくれるために
工夫した点が3つあります。

一つ目は

二つ目は

三つ目は



交流を終えた後、低学年にとって
こんなよいことがあります。

名前 ()

友だちの意見のメモコーナー

友だちの意見を聞いて、よかった
気付いたことをメモしましょう。

グループで提案する交流

年 組への提案書

低学年の友だちが喜んでくれる交流活動を提案します

〇〇小学校 年 組 名前 ()

【提案】

(例：低学年の友だちが、よろこんでくれるよう、大なわとび大会を開きます。)

【提案理由】

(一年生に学校の楽しさを伝え、学校に来ることを楽しみにしてほしいと思います。

～略～

本当にみんなに喜んでもらえる活動は、これです。

この交流をすれば、学校満足度120%になるに違いありません。～略～

一年生にインタビューした結果があります。(・・・)

アンケート結果

楽しそうに遊んでいる写真

みんなに伝えよう 評価カード

年 組 名前()

交流を提案したグループ【 】さん
どういう交流を提案したか 【 】

評価

【話し方について】	評 価				
① 声の大きさはどうでしたか	5	4	3	2	1
② 話すスピードはどうでしたか	5	4	3	2	1
③ 顔をあげ、みなをみているか	5	4	3	2	1
【内容について】	評 価				
① 説得する材料をあげることができていた	5	4	3	2	1
② 文と文のつながりはおかしくないですか	5	4	3	2	1
③ 根拠や数字をあげて説得することができたか	5	4	3	2	1

コメント

--

自分の(聞く側)評価

【聞き方について】	評 価				
① 相手の目をみて話をきけた	5	4	3	2	1
② 質問することを考えながらきけた	5	4	3	2	1

感想

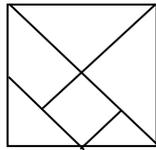
--

- ねらい** : 聞き手に伝えたいことを分かりやすく話すための話し方を知る。
- 対象** : 小学校 高学年～
- 授業時間** : 1 時間
- 準備** : おり紙、はさみ、ワークシート「分かりやすく話そう」(P41)、
図形パターン (P42)

▼学習活動の流れ

○分かりやすく話すための学習目標をワークシートに記入する。

○教師の説明にしたがって折り紙を切る。



○折り紙のパーツで作った図形を言葉だけで説明する。

○グループに分かれ、聞き手に分かりやすい話し方を考えながら説明する。

○説明を聞き、分かりやすい話し方についてワークシートにまとめ、発表する。

○自分の話し方について自己評価して、学習をふりかえる。

▼支援（・） 留意事項（◎）

- ・ワークシートに学習目標を書かせ、めあてを確認させる。
 - ①文を短くして話す。
 - ②全体像を先に話す。
 - ③項目を立てて話す。

◎教師は図示や身ぶり手ぶりをさけ、言葉だけで折り紙の切り方を説明する。

◎図形は6パターン以上用意する。

- ・子どもの中から代表を一人選んで説明させ、どんな点に気がつけたらわかりやすいか考えさせる。
- ・説明をするときにどんな点に気がつけたらよいか、意見を聞いて気づいたことをワークシートに記入させる。
- ・グループの中で、違う図形の説明ができるよう配慮する。
- ・どんなことに気がつけたらよいか、誰の説明が良かったかなど、実際に活動してみて気づいたことを発表させる。

・ワークシートの「話すことの自己評価」をチェックして、わかったことや感想を記入させる。

ワークシート

分かりやすく話そう

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

学習目標 ()

【伝えるときに注意すること、気づいたこと】

- ・
- ・
- ・
- ・

【話すことの自己評価】

話す意識

- 聞き手を意識しようとしたか。
- どう話したら分かりやすいかを考えようとしたか。
- ふだんの話し方を見直そうとしたか。

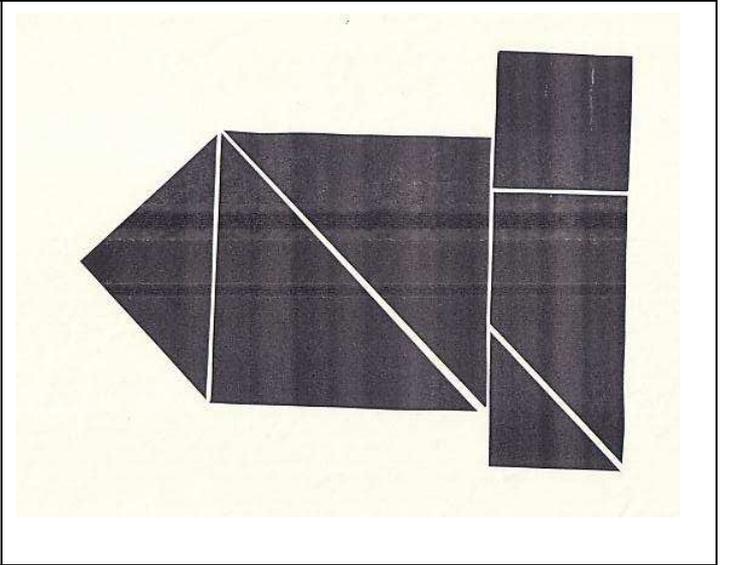
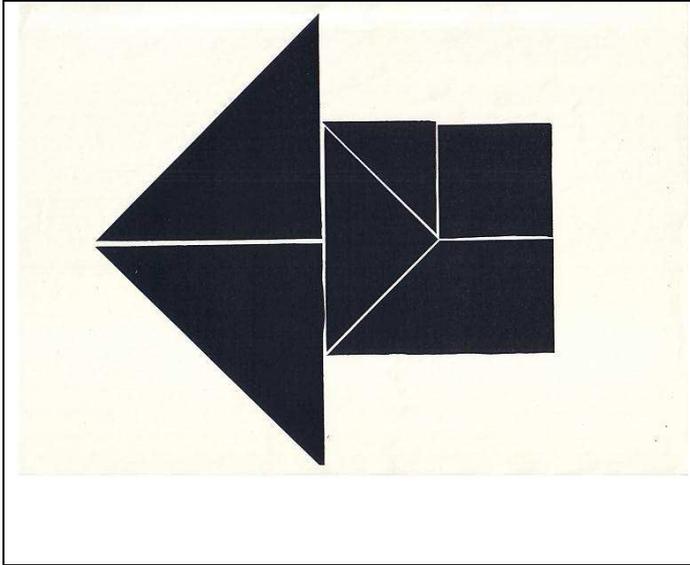
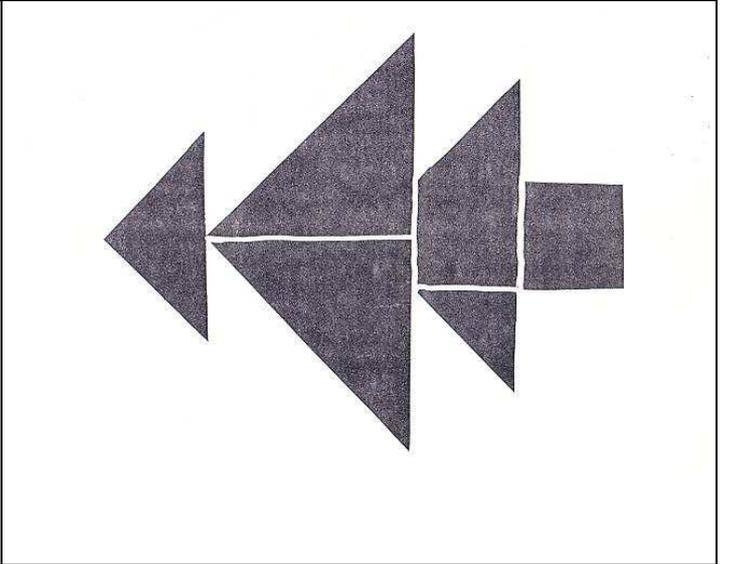
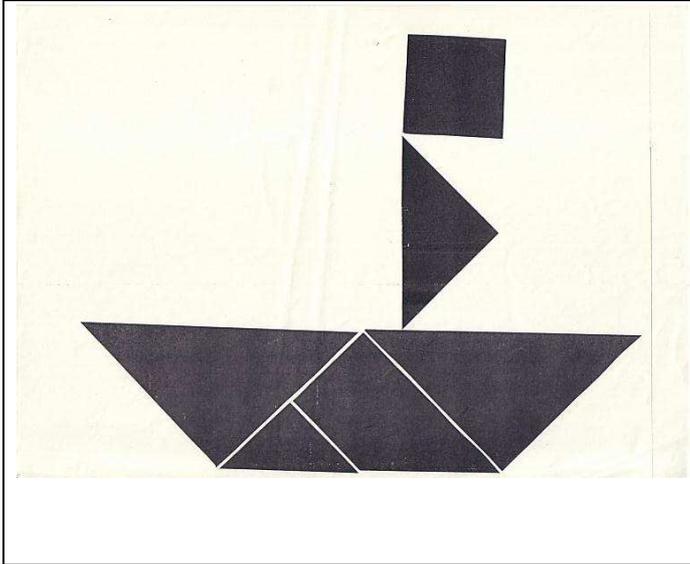
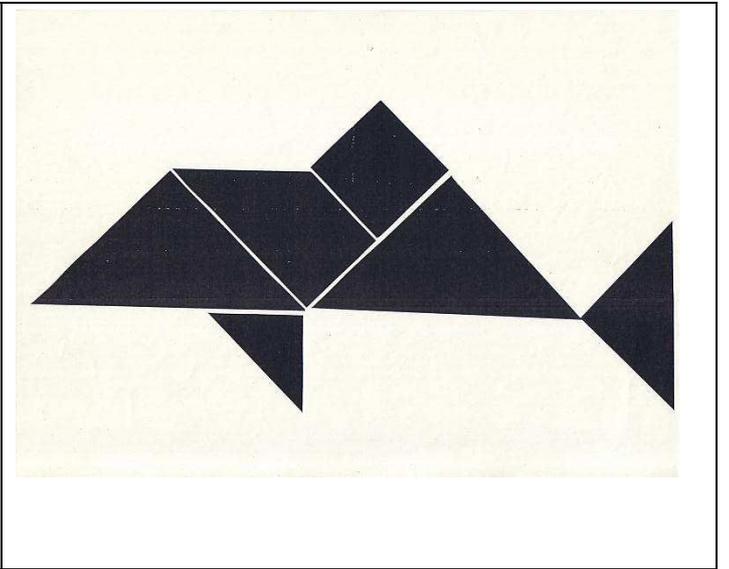
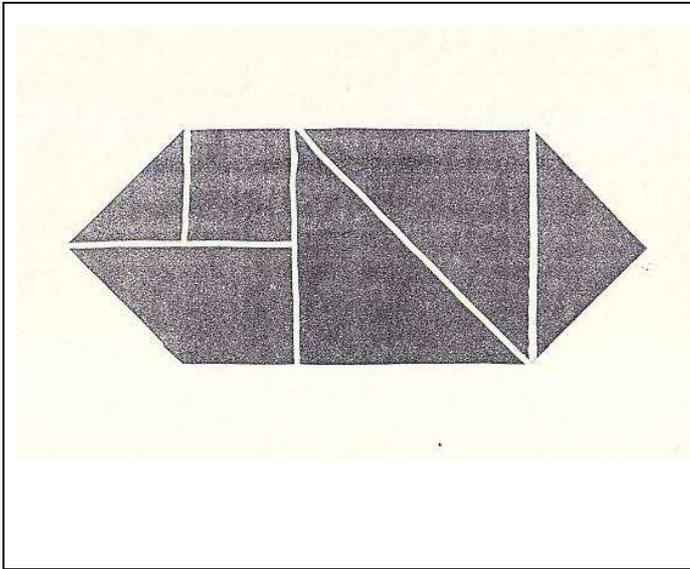
話す知識

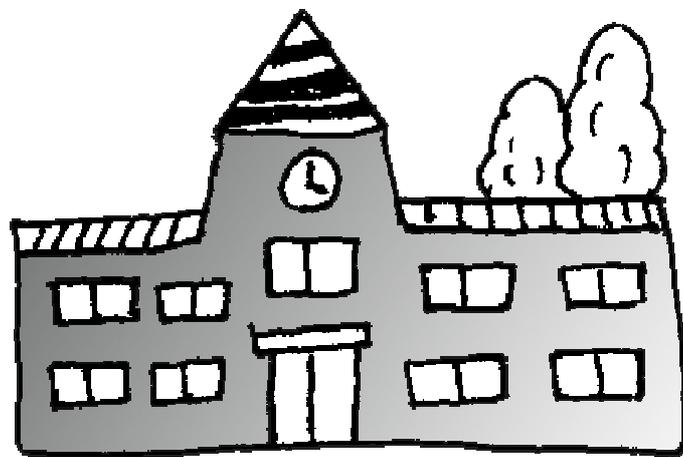
- 文の長さを考えて話すことの大切さが分かったか。
- 順番をを考えて話すことの大切さが分かったか。
- 構成をを考えて話すことの大切さが分かったか。

話す技能

- 文を短くして話すことができたか。
- 全体像を先に話すことができたか。
- 項目を立てて話すことができたか。

【今回の授業の感想】





ねらい : プレゼンテーションソフトを使って相手に効果的に伝えるための話し方を学ぶ。

対象 : 中学校 2年

授業時間 : 2～3時間

準備 : プレゼンテーションソフト、職場体験の写真やパンフレットなど、ワークシート「職場体験学習の報告をしよう」(P45)、「プレゼンテーションの作成例」(P46)、「進行表」(P47)

▼学習活動の流れ

▼支援(・) 留意事項(◎)

①学習の流れを確認する。

○効果的なプレゼンテーションのポイントを確認する。

○絵コンテを参考にしてプレゼンテーションの計画を立て、役割分担をする。

○進行表を作り、プレゼンテーションの準備をする。

②③プレゼンテーションをする。

○お互いの発表を聞いて気付いたことや感じたことを話し合い、ワークシートの「話すことの自己評価」をチェックして、「授業の感想」を記入する。

・プレゼンテーションソフトを使って、職場体験学習の活動報告書を作る。

・効果的なプレゼンテーションをするためのポイントを確認させ、ワークシートに学習目標を書かせる。

①姿勢 (どういう気持ちで)

②内容 (何を)

③伝え方 (どのように伝えるか)

・「プレゼンテーションの作成例」を参考に、絵コンテを作成させる。

◎プレゼンテーションには、イラスト等を入れると効果的であることを伝える。

・作成した進行表と、ワークシートの「リハーサルのチェックポイント」を活用してリハーサルをさせる。

・グループごとにプレゼンテーションをさせる。

・ワークシートの「話すことの自己評価」をチェックして、授業の感想を記入させる。

※プレゼンテーションソフトで授業を行うことが難しい場合は、紙芝居形式でも行うことができる。

ワークシート

職場体験学習の報告をしよう

()年()組()番 氏名()

【学習目標】

--

【リハーサルでのチェックポイント】

1. ぜひ伝えようとする姿勢があるか。
2. 分かりやすいか、効果的か。
3. 最も伝えたいことが入っており、過不足はないか。
4. 時間配分は適切か。
5. 出そうな質問について答えを考えているか。
6. 資料の出し方などのタイミングはよいか。
7. 声量・速さ・視線・しぐさなど、話し方は適切か。
8. 発表者の立つ位置や各人の配置は適切か。

【話すことの自己評価】

話す意識

- どのような聞き手かを考えて話そうとしたか。
- 発表内容や発表方法を工夫しようとしたか。
- 分かりやすく効果的に話そうとしたか。

話す知識

- 発表の計画を立てるときのポイントが分かったか。
- リハーサルでのポイントが分かったか。
- プレゼンテーションの進め方が分かったか。

話す技能

- どのような聞き手かを考えて、話す内容を整理することができたか。
- 分かりやすく話を組み立てることができたか。
- 目や耳に訴えることができたか。

【授業の感想】

--

プレゼンテーションの作成例 ～幼稚園職場体験の場合～

表紙

日程

活動内容

<p>職場体験で学んだこと</p>	<p>1日の流れ（例）</p>	<p>体験の内容 園児たちが登園してきます</p>
<p>うどんやおえかき</p>	<p>おべんとうのじかん</p>	<p>園児たちの下校（園）</p>
<p>かたづけと教材の準備 ・園児は帰っても先生の仕事は 終わりません。いろいろな会 議もいっぱいあります。</p>	<p>メンバーの印象や感想</p>	<p>職場体験で学んだこと 将来に向けて ・Aさん： ・Bさん：</p>

※イラスト等を入れると、より効果的です。

進行表

年 組 メンバー ()

スライド番号	累計時間	担当	ナレーション	備考

ねらい : 聞き手を納得させるための話し方を学ぶ。

対象 : 中学校 3年

授業時間 : 1時間

準備 : 近隣の地図、画用紙、マジック等
ワークシート「ハンバーガーショップを出店するなら」(P49)

▼学習活動の流れ

- 学習の流れを確認する。
学習目標を記入する。
- どこに出店するか、根拠、販売戦略、プレゼンのコツについて考えをまとめる。
- 「説得力のある話し方」について考えながら、プレゼンテーションの準備をする。
- グループでディスカッションしながらアイデアを一つに絞り、プレゼンテーションの準備をする。
- グループごとにプレゼンテーションする。
- 最も説得力のあったアイデアを選び、自己評価し、感想をまとめる。

▼支援（・） 留意事項（◎）

- ◎全員に近隣の地図を配布する。
 - ・話の説得力を増すためのポイントを確認させる。
 - ①相手の意見を受け止める。
 - ②根拠や数字をあげる。
 - ③相手の反論を想定して話す。
 - ・個人の考えをまとめてから、グループで話し合い、アイデアを一つに絞るよう助言する。
 - ・「説得力のある話し方」のポイントを確認させる。
 - ①提案の要点
 - ②聞き手の分析の検討
 - ③話の組み立て展開の仕方の工夫
 - ④資料提示の仕方の工夫
 - ⑤想定問答の準備
 - ・ワークシートに気づいたことや考えたことについてまろめさせ、意見を発表させる。
 - ・「話すことの自己評価」により、学習をふりかえらせる。
- ※実際の事業主（ゲストティーチャー）にアドバイスや評価してもらえれば効果がある。

ワークシート

ハンバーガーショップを出店するなら

() 組 () 番 名前 ()

1. 学習目標「 _____ 」

2. メンバー (_____)

3. どこに出店するか？（地図上に赤で○を記入する。）

4. 理由や販売戦略を書こう。

5. プレゼンテーションの準備や発表を聞いたときの感想を書こう。

6. 説得力のあるプレゼンテーションをするには、どんなことに気をつけたらよいか、自分の考えをまとめよう。

【話すことの自己評価】

話す意識

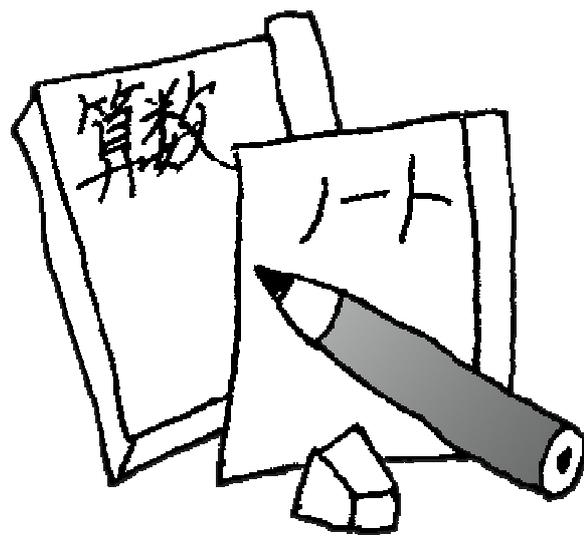
- 相手を説得しようという意識を持って話したか。
- 説得力のある話し方のポイントを考えようとしたか。
- 役割の人の立場や気持ちになろうとしたか。

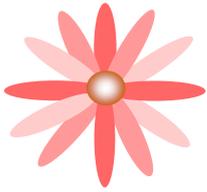
話す知識

- 相手の立場を考えることの大切さが分かったか。
- 説得する材料を挙げることの効果が分かったか。
- 相手の考えをふまえて話すことの大切さが分かったか。

話す技能

- 相手の意見を受け止めたうえで説得できたか。
- 根拠や数字をあげて説得することができたか。
- 相手の反論を想定して説得することができたか。





タイベート



- ねらい** : テーマに対して自分の考えを持ち、その理由を考えさせる。
相手にどのように説明したら、分かってもらえるか考えさせる。
- 対象** : 小学校 低学年～
- 授業時間** : 2時間
- 準備** : ワークシート「ディベートをしよう」(P53) ※他のテーマでも活用可。
「ディベートのしかた」(P54)、シール2色、バインダー

▼学習活動の流れ

①テーマを知り、自分の考えをもつ。

○ディベートマッチの仕方を知り、ワークシートに自分の考えを記入する。

○友だちの考えやよいと思う理由をインタビュー形式で聞き、ワークシートに記入する。

②ディベートマッチを行う。

○交互に意見を述べる(3分×2)

「なぜそう思うのか。」

「良いところは何か。」など

○質疑応答(3分×2)

○最終弁論(3分×2)

○移動タイム

最終的に自分はどう思うか考え、意見が変わった児童は、相手側に移動しても良いことを伝える。

○判定(人数の多い方が勝ち)

○振り返り

話し方などについて考える。

▼支援(・) 留意事項(◎)

- ・「ディベートのしかた」を配布し、ディベートについて説明する。(テーマ・ディベートマッチの方法・判定の仕方)
- ・それぞれの考えをもとに、学級を2つのグループに分ける。
- ・2色のシールを用意し、子どもの考えに合わせてワークシートに貼っておくと、子どもたちにもわかりやすい。
- ・自分と同じ考えの友だちだけではなく、違う考えの友だちの意見も聞くよう伝える。
※次時までには、家族の考えやその理由を聞いてくるようにしてもよい。

◎立場については、自分の考えで決めるが、「好き嫌い」ではなく、「どちらがよいと思うか」を意識させる。

- ・マッチの司会・計測は教員が行う。
- ・ビデオを撮ると、振り返りで役に立つ。
- ・ディベートマッチに出た意見は板書し、移動タイムの時のヒントになるようにする。
- ・マッチでは、多くの児童を指名し、意見を出させ、多様な意見を述べさせる。
- ・振り返りでは、自分や友だちの意見の変化に注目させる。

【他のテーマ例】

- ・ランドセルか、リュックか
- ・教室には扇風機か、クーラーか
- ・朝食はパンか、ご飯か など

<ワークシート> ディベートをしよう!

名前 ()

ディベートってなに?

ディベートは、たとえば「朝読書でマンガ本をもってきてよいか」というテーマについて、2つの考えをたたかわせて、話し合うゲームです。
ここでは、すこしルールをかえてやってみましょう。

テーマは…【きゅう食とお弁当、どちらがいいか】

<お昼に食べるなら、きゅう食とお弁当どっちがいいかな?>○をつけよう

きゅう食 お弁当 がいい。

<りゆう>

.....

.....

.....

.....

友だちの考え

よいと思うりゆうを友だちに聞いてみよう。

きゅう食がよい

.....

.....

.....

.....

お弁当がよい

.....

.....

.....

.....

< ティベートのしかた >

- ・きょうしつを半分にして、きゅう食の人とおべん当の人に分かれてすわりま
す。
- ・しかいは先生がします。
- ・話し合いをして、考えがかわった人は、「いどうタイム」にせきをかえても
よいです。
- ・さいごに人ずうの多いほうがかちです。

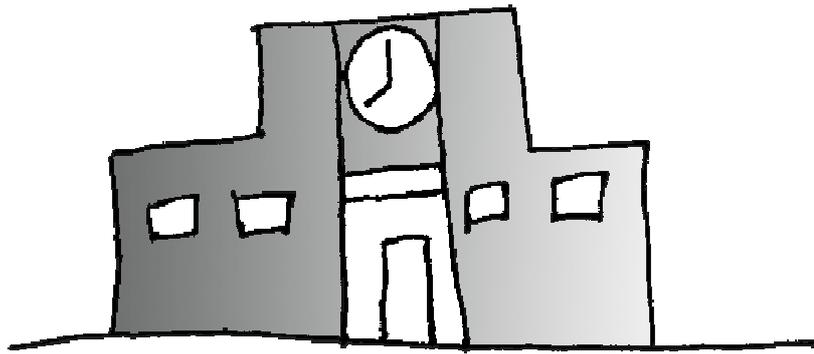
< な が れ >

- | | | |
|----|---------------------|------|
| 1、 | きゅう食の人の考え | (3分) |
| 2、 | おべん当の人の考え | (3分) |
| 3、 | きゅう食の人からおべん当の人にしつもん | (3分) |
| 4、 | おべん当の人からきゅう食の人にしつもん | (3分) |
| 5、 | きゅう食の人の考え | (3分) |
| 6、 | おべん当の人の考え | (3分) |
| 7、 | いどうタイム | (1分) |
| | 8、 | はんてい |
| | 9、 | 先生より |

< ちゅうい >

- ・かならず手をあげてから、話をする。
- ・「～です。～ます。」など、ていねいな話し方をする。
- ・あい手の話をさいごまで聞く。
- ・友だちがいやな気もちになることばは、つかわない。
- ・友だちの話は、メモをとってもよい。
- ・しつもんのはきは、答えを言うだけで、しつもんはしません。

<< メモ >>



ねらい : 賛否が分かれる問題について、それぞれの意見を考え、相手を説得する話し方を工夫したり、相手の話しを聞き取ったりする。

対象 : 小学校 中学年～

授業時間 : 2時間

準備 : ワークシート「ディベートをしよう」(P57～P58) ※他のテーマでも活用可。
判定表 (P59)

▼学習活動の流れ

①テーマを知り、自分の考えをもつ。

- ワークシートに「すべき」「すべきでない」の考えを記入する。
- ・ワークシートに相手の意見、考えのマイナスポイントを予想し、記入する。
- ・ディベートの仕方を知り、次回の準備をする。

②ディベートマッチを行う。

- 交互に意見を述べる。(5分×2)
「なぜそう思うか。」
「良いところは何か。」など
※相手の意見を聞き、質問する内容をメモする。
- 質疑応答(3分×2)
「○○をすると上手くいかないのではないのでしょうか。」
- 最終弁論(3分×2)
- 移動タイム
- 判定(人数の多い方が勝ち。)
- 振り返り

▼支援(・) 留意事項(◎)

- ◎それぞれの考えをもとに、学級を2つのグループに分ける。
 - ・自分の考えとその理由をワークシートに記入させる。
 - ・ワークシートを用意し、ディベートの仕方の説明に十分な時間をとる。
- 【他のテーマ例】
 - ・夏休みは必要か
 - ・宿題は必要か
 - ・教室の席を自由席にすべきか
 - ・登校班は必要か
 - ・小学生に携帯は必要か
- ◎討論によっては、相手の主張と自分の意見をよく考え合わせた結果、自分の考えが変わってもよいことを伝える。
- ◎説得力のある話し方(「考えを先に、理由を後に」「体験や具体例を入れて」)については、そうっていない例と比較して、分かりやすさが際立つようにする。
- ◎説得力のある発言や、相手の意見に応じた適切な発言などを記録し、まとめの話し合いの際に再度全体の前で確認できるようにする。

<ワークシート> ディベートをしよう!

名前()

① ディベートって何?

ディベートは、例えば「そうじはみんな(子ども)ですべきか」というテーマについて、2つの反対する立場に立ち、意見をたたかわせて話し合うゲームです。ディベートマッチの勝敗の決め手は「説得力があるか」です。

今回のテーマは・・・

そうじはみんな (子ども) ですべきか

このテーマについて、考えていきましょう。

② (そうじはみんなで すべきで) 【 ある ・ ない 】

その理由は、

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

② 相手に対して、質問すること、はんたい意見をかいておきましょう。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

ディベートのしかた

- ・「そうじをみんなですべき」グループと、「すべきでない」グループに分かれて座ります。
- ・司会は先生がします。
- ・話し合いをして、考えがかわった人は、「いどうタイム」に席をかえてもよいです。
- ・さいごに人数の多い方が勝ちです。

【流れ】

1. 「そうじをみんなですべき」の人の考え (5分)
2. 「そうじはみんなですべきでない」の人の考え (5分)
3. 「すべき」の人から「すべきでない」の人に質問(3分)
4. 「すべきでない」の人から「すべき」の人に質問(3分)
5. 「そうじをみんなですべき」の人の考え (3分)
6. 「そうじはみんなですべきでない」の人の考え (3分)
7. いどうタイム (1分)
8. 判定
9. 先生より

【気をつけること】

- ・かならず手を挙げてから、話しをする。
- ・「～です。～ます。」など、ていねいな話し方をする。
- ・相手の話をさいごまで聞く。
- ・友だちがいやな気持ちになる言葉は、つかわない。
- ・友だちの話しは、メモをとってもよい。
- ・質問の時は、答えを言うだけで、質問はしません。

【メモ】

【ディベート振り返りシート】

名前()

	評価内容	【 】側	【 】側
初めの主張	聞いていてわかりやすかった	3 2 1	3 2 1
質問・答え方	話し方や態度がきちんとしていた	3 2 1	3 2 1
最後の主張	聞いていて分かりやすかった	3 2 1	3 2 1
	さいしょの主張のくり返しになっていなかった	3 2 1	3 2 1
感想			

○ディベートのじゅんびについて思ったこと

○ディベートが終わった後の感想

- ねらい** : 賛否が分かれる問題について、それぞれの意見の長所と短所を分析的に考え相手を説得する話かたを工夫したり、相手の論点を聞き取ったりして、結論を導こうとして討論する。
- 対象** : 小学校 高学年～
- 授業時間** : 7時間
- 準備** : ワークシート「ディベートをしよう」(P61～P65) ※他のテーマでも活用可。
司会者台本例 (P66～P68)、判定表 (P69)

▼学習活動の流れ

①ディベートについて知る。

- ディベートや準備の仕方についてワークシートをもとに確認する。
- (肯定グループ、否定グループに分かれる)

②③それぞれのテーマについて、自分やグループの考えをワークシートに記入し、準備を行う。

- グループを作り、役割を決める。
- グループでの役割分担(初めの主張をする人、最後の主張をする人質問に答える人)を行う。
- 掲示物を作る、資料を集める。
- 作戦を立てる。

④⑤⑥ディベートマッチをする。

- 立論 (2分×2)
- 質疑応答 (3分×2)
- 最終弁論 (2分×2)
- 判定

⑦振り返りをする。

- よい発表の例のビデオ等をつかって振り返る。
- ディベート全体を振り返り、判定表に感想を書く。

▼支援(・) 留意事項(◎)

- ◎ディベートは、対立点や相違点がある話題について話し合い、考えを深めるねらいがあることを押さえる。

- ◎ディベートの仕方の説明を十分に行う。

【ディベートの仕方】

- ①クラスを、1グループ4～6人の6グループに分ける。
- ②表題のテーマ「小遣いは定額制かお手伝いの報酬制か」のほかに2つのテーマを選んでおく。
(P85 資料 ディベートテーマ例 参照)
- ③1テーマにつき2グループずつ割り当て肯定グループ、否定グループに分かれて準備を行う。
- ④2つのグループでディベートマッチを行い、残り4グループは判定を行う。
(判定表を記入する。)

- ◎1テーマ1時間を目安にディベートマッチを行う。

- ◎前もって、自分の考えや疑問点を持っておくことが大切であることを説明する。

- ◎討論しやすいように対面コの字型にする。

- ◎説得力のある話し方(「考えを先に、理由を後に」「体験や具体例を入れて)」については、そうっていない例と比較して、分かりやすさが際立つようにする。

- ◎説得力のある発言や、相手の意見に応じた適切な発言などのよい発言を記録し、振り返りの際に全員に紹介できるようにする。

<ワークシート> ディベートをしよう!

名前()

① ディベートって何?

ディベートは、例えば「学校にマンガ本をもってきてよいか」というテーマについて、2つの反対する立場に立ち、意見をたたかわせて話し合うゲームです。ディベートマッチの勝敗の決め手は「説得力があるか」です。

今回のテーマは・・・

小遣いは定額制かお手伝いの報酬制がよいか

このテーマについて、考えていきましょう。

② (小遣い) は の方がよい。

その理由は、

② 他の人にも聞いてみよう。

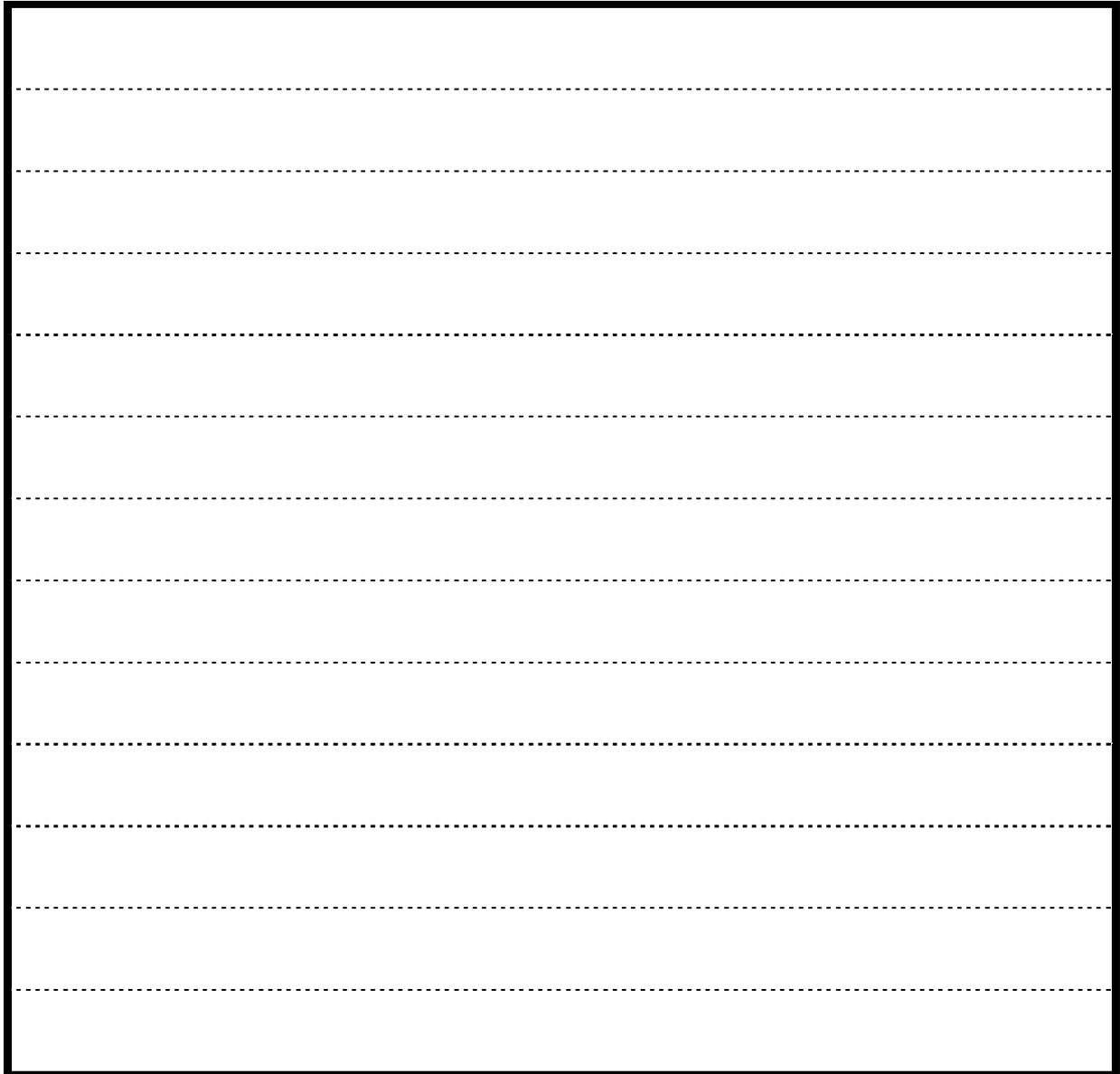
(定額制) 【 さん】

(報酬制) 【 さん】

小学校高学年用

〈最終弁論を述べる人〉 1人 ()

最後に自分の意見をまとめて発表します。準備はしておきますが、できれば話し合いの間に出た意見もはさめるとよいですね。 2分間ですので、600字が目安です。



※ディベートマッチの勝敗を決めるのは「説得力」があるかどうか、です。自分の好ききらいや、ただ主張するだけでは説得力がありません。データ(アンケートなど)や資料(新聞記事など)を用意し、けいじ物をつくるとよいですね。

⑤ ディベートマッチの流れ

1	(定額制) 側の立論 (2分間)
2	(報酬制) 側の立論 (2分間)
3	作戦タイム (2分間)
4	(報酬制) 側からの質問 (3分間)
5	(定額制) 側からの質問 (3分間)
6	作戦タイム (2分間)
7	(報酬制) 側の最終弁論 (2分間)
8	(定額制) 側の最終弁論 (2分間)
9	判定

⑥ ディベートマッチをする時に注意すること

- ・必ず、手を挙げて指されたら立って話すこと。
- ・「～です」「～ます」などていねいに話すこと。
- ・相手の発言をとちゅうでさえぎらないこと。
- ・相手からの質問の時間は、こちらは答えるだけです。ぎゃくに質問してはいけません。
- ・メモをとるようにしましょう。
- ・判定する人は、「好ききらい」や「自分はこう思う」ではなく、「討論している人の意見が説得力があるか」を基準に判定して下さい。

<感想>



〈ディベート資料〉

司会者台本 (例)

◎役割分担・論題の発表

司会：これからディベートに入ります。まずはじめに、役割分担の紹介をします。

賛成側は()です。 反対側は()です。

計時係は()です。

それぞれ自分の役割、立場を理解してがんばりましょう。

司会：では論題に入ります。 論題は()です。

◎賛成側立論 ⇒ 反対側立論

司会：まずはじめに、賛成側立論 ()分はじめてください。

賛成側：これから賛成側立論を始めます。私はこの論題に賛成します。

その理由は()つ あります。

1つ目は・・・

2つ目は・・・

3つ目は・・・

以上のことから、この論題に賛成します。

司会：次に、反対側立論()分はじめてください。

反対側：これから反対側立論を始めます。私は、この論題に反対します。

その理由は()つ あります。

1つ目は・・・

2つ目は・・・

3つ目は・・・

以上のことから、この論題に反対します。

◎反対側から質問・応答()分 ⇒ 賛成側から質問・応答()分

司会：それでは、質問に移ります。まず、反対側から賛成側への質問、応答を入れて()分です。はじめて下さい。

反対側：()さんに質問します。

()は、どうなのですか。

司会：それでは、質問に移ります。まず、反対側から賛成側への質問、応答を入れて
()分です。はじめて下さい。

賛成側：()さんに質問します。
()は、どうなのですか。

◎作戦タイム ()分

司会：次に進みます。作戦タイムです。賛成側、反対側や審判の人たちは話し合い、
参加者
はグループに分かれて話し合ってください。
()分、はじめて下さい。

◎反対側最終立論 ()分 ⇒ 賛成側最終立論 ()分

司会：最後に反論を含めた最終弁論に入ります。まず、反対側最終弁論、()分
はじめて下さい。

反対側：私は、やはりこの論題に反対します。
()さんは、()のように
言っていましたが、それは、()
から考えても難しいことだと思います。
それに()から考えて
もやはり()です。
だから私は、()につ
いて反対です。

司会：賛成側最終弁論()分はじめて下さい。

賛成側：私は、やはりこの論題に反対します。
()さんは、()のように
言っていましたが、それは、()
から考えても難しいことだと思います。
それに()から考えて
もやはり()です。
だから私は、()
について反対です。

◎計時係からの報告()分

司会：次に計時係から()分の報告です。
(各立論の使用時間と質問の時間を報告)

◎審判の話し合い、参加者の意見、感想交流（ ）分

司会：次に審判は判定の競技に移ります。時間は()分以内に必ずまとめて話すこと。この()分を利用して、参加者による意見交換と感想交換をしてもらいます。できるだけたくさんのお意見ををお願いします。

◎審判の話（ ）分

司会：審判の競技も終わったようですので、判定結果を報告してもらいます。()分以内をお願いします。

※評価のポイントについては、別紙を参考にしてください。

◎先生の話()分

司会：先生のお話を聞きましょう。

【ディベート判定表】

名前()

	評価内容	賛成側	反対側
立論	聞いていてわかりやすかった	3 2 1	3 2 1
	資料が理由の根拠となっていた	3 2 1	3 2 1
質問 応答	話し方や態度がきちんとしていた	3 2 1	3 2 1
	反論がわかりやすかった	3 2 1	3 2 1
最終 弁論	聞いていて分かり易かった	3 2 1	3 2 1
	立論の繰り返しになっていなかった	3 2 1	3 2 1
感想			

対 で 側の勝ち

- ねらい** : 論理的に意見を組み立て、相手を説得する話し方を身につける
物の見方を広げ、物事を多角的にとらえさせる。(論戦なし)
- 対象** : 中学校 1年～
- 授業時間** : 5時間～(ディベートマッチの時間によって時間数が変わってきます)
- 準備** : 「ディベートをしよう①(テーマ例なし)」(P73～P74)、
「ディベートをしよう②(テーマ例あり)」(P75～P76)、
「ディベート準備カード」(P84)、
「ディベートプログラム 台本例(論戦なし)」(P77～P78)、
「ディベート判定表」(P79)、「ディベートを振り返ろう」(P83)

▼学習活動の流れ

①テーマを知り、グループ・立場を決める。

○グループの中で話し合い、メリット・デメリットを考える。

②③役割分担をし、それぞれ準備をする。

- 分担) ・立論 ・最終弁論 ・質疑応答
準備) ・資料を集める(本やインターネットなど)
・アンケートを取る・集計する、
・ディベート準備カード作り
(質問を予測し回答を用意する、また相手への質問を用意し反論を考える)
・掲示物・配布資料を作る

④ディベートマッチを行う。

- 立論 2分×2
○質疑応答 5分×2
○最終弁論 2分×2
○判定表に記入し、判定を行う。

⑤ディベートマッチの振り返りを行い、話し方について考える。

▼支援(・) 留意事項(◎)

- ・「ディベートをしよう①」または「ディベートをしよう②」を配布し、テーマやディベートマッチの方法・判定の仕方などについて説明する。
- ・グループを作り、立場を決定する。
- ※「ディベートの仕方」については、P60を参照。
- ◎立場については、くじ引きなどで決め、生徒の好きなほうなどにはしない。
- ・役割について説明し、それぞれ準備するポイントを指示する。
- ・「ディベートをしよう」のプリントや「ディベート準備カード」に、書き込む形で準備させる。
- ・アンケートや資料など、客観的・数値的な情報を集めさせる。
- ・画用紙等を使い、掲示物を作らせる。
- ◎立論と最終弁論は同一人物でも構わない。質疑応答はマッチの時は全員で行う。
- ◎マッチの司会者・計測者・カメラマン(できれば)を事前に決定しておき、円滑にマッチが進められるよう指導しておく。
- ・ディベートマッチの最中は、司会者のフォローをし、マッチが円滑に行われるように配慮する。また、マッチの後、指導・講評を行う。
- ◎判定表(論戦なし)を配布し、判定を行わせる。
- ◎判定の際は、判定者に「自分の考え」で決めるのではなく、「説得力があったか」を基準にさせる。
- ◎マッチについては、班の数によって授業時数が増える。
- ・振り返り際には、ディベート判定表をそれぞれのチームに渡し、それを見ながら振り返りをさせる。

- ねらい** : 論理的に意見を組み立て、相手を説得する話し方を身につける物の見方を広げ、物事を多角的にとらえさせる。(論戦あり)
- 対象** : 中学校 2年～
- 授業時間** : 5時間～(ディベートマッチの時間によって時間数が変わってきます)
- 準備** : 「ディベートをしよう①(テーマ例なし)」(P73～P74)、
「ディベートをしよう②(テーマ例あり)」(P75～P76)、
「ディベート準備カード」(P84)、
「ディベートプログラム 台本例(論戦あり)」(P80～P81)
「ディベート判定表」(P82)、「ディベートを振り返ろう」(P83)

▼学習活動の流れ

①テーマを知り、グループ・立場を決める。

○グループの中で話し合い、メリット・デメリットを考える。

②③役割分担をし、それぞれ準備をする。

- 分担) ・立論 ・最終弁論 ・質疑応答
準備) ・資料を集める(本やインターネットなど)
・アンケートを取る・集計する、
・ディベート準備カード作り
(質問を予測し回答を用意する、また相手への質問を用意し反論を考える)
・掲示物・配布資料を作る

④ディベートマッチを行う。

- 立論 3分×2
○質疑応答 5分×2
○論戦 10分
○最終弁論 2分×2
○判定表に記入し、判定を行う。

⑤ディベートマッチの振り返りを行い、話し方について考える。

▼支援(・) 留意事項(◎)

- ・ディベートをしよう①)または「ディベートをしよう②)を配布し、テーマやディベートマッチの方法・判定の仕方などについて説明する。
- ・グループを作り、立場を決定する。
- ※ディベートの仕方については、P60を参照。
- ◎立場については、くじ引きなどで決め、生徒の好きなほうなどにはしない。
- ・役割について説明し、それぞれ準備するポイントを指示する。
- ・「ディベートをしよう」のプリントや「ディベート準備カード」に書き込む形で準備させる。
- ・アンケートや資料など、客観的・数字的な情報を集めさせる。
- ・画用紙等を使い、掲示物を作らせる。
- ◎立論と最終弁論は同一人物でも構わない。質疑応答はマッチの時は全員で行う。
- ◎マッチの司会者・計測者・カメラマン(できれば)を事前に決定しておき、円滑にマッチが進められるよう指導しておく。
- ・ディベートマッチの最中は、司会者のフォローをし、マッチが円滑に行われるように配慮する。また、マッチの後、指導・講評を行う。
- ◎判定表(論戦あり)を配布し、判定を行わせる。
- ◎判定の際は、判定者に「自分の考え」で決めるのではなく、「説得力があったか」を基準にさせる。
- ◎マッチについては、班の数によって授業時数が増える。
- ・振り返りの際には、判定表をそれぞれのチームに渡し、それを見ながら振り返りをさせる。

- ねらい** : 論理的に意見を組み立て、相手を説得する話し方を身につける
物の見方を広げ、物事を多角的にとらえさせる。(論戦あり)
- 対象** : 中学校 3年
- 授業時間** : 5時間～(ディベートマッチの時間によって時間数が変わってきます)
- 準備** : 「ディベートをしよう①(テーマ例なし)」(P73～P74)、
「ディベートをしよう②(テーマ例あり)」(P75～P76)、
「ディベート準備カード」(P84)、
「ディベートプログラム 台本例(論戦あり)」(P80～P81)
「ディベート判定表」(P82)、「ディベートを振り返ろう」(P83)

▼学習活動の流れ

①テーマを知り、グループ・立場を決める。

○グループの中で話し合い、メリット・デメリットを考える。

②③役割分担をし、それぞれ準備をする。

- 分担) ・立論 ・最終弁論 ・質疑応答
準備) ・資料を集める(本やインターネットなど)
・アンケートを取る・集計する、
・ディベート準備カード作り
(質問を予測し回答を用意する、また相手への質問を用意し反論を考える)
・掲示物・配布資料を作る

④ディベートマッチを行う。

- 立論 3分×2
○質疑応答 5分×2
○論戦 10分
○最終弁論 2分×2
○判定表に記入し、判定を行う。

⑤ディベートマッチの振り返りを行い、話し方について考える。

▼支援(・) 留意事項(◎)

- ・ディベートをしよう①)または「ディベートをしよう②)を配布し、テーマやディベートマッチの方法・判定の仕方などについて説明する。
- ・グループを作り、立場を決定する。
- ※ディベートの仕方については、P60を参照。
- ◎立場については、くじ引きなどで決め、生徒の好きなほうなどにはしない。
- ・役割について説明し、それぞれ準備するポイントを指示する。
- ・「ディベートをしよう」のプリントや「ディベート準備カード」に書き込む形で準備させる。
- ・アンケートや資料など、客観的・数字的な情報を集めさせる。
- ・画用紙等を使い、掲示物を作らせる。
- ◎立論と最終弁論は同一人物でも構わない。質疑応答はマッチの時は全員で行う。
- ◎マッチの司会者・計測者・カメラマン(できれば)を事前に決定しておき、円滑にマッチが進められるよう指導しておく。
- ・ディベートマッチの最中は、司会者のフォローをし、マッチが円滑に行われるように配慮する。また、マッチの後、指導・講評を行う。
- ◎判定表(論戦あり)を配布し、判定を行わせる。
- ◎判定の際は、判定者に「自分の考え」で決めるのではなく、「説得力があったか」を基準にさせる。
- ◎マッチについては、班の数によって授業時数が増える。
- ・振り返りの際には、判定表をそれぞれのチームに渡し、それを見ながら振り返りをさせる。

<ディベートをしよう①>

氏名 ()

* チームメンバー

[] チーム

* テーマ

{ } 側

* 主張の根拠を考えよう (よいところやメリットを中心に)

[メモ]

《根拠》

①

②

③

* 弱点を考えよう（相手はここをついてくるかも！・・・反論も考えておこう）

* 相手からの質問を予測しよう（答えも用意しよう）

* 相手側の根拠を推測しよう

①

②

③

* 相手側の弱点を考えよう（＝こっちのメリットになるかも！）

* 相手への質問事項を考えよう（こっちのメリットを主張できるように！）

<ディベートをしよう②>

氏名()

* テーマを選ぼう

- ① 制服は必要か { 必要である ・ 必要でない }
- ② 部活動は、勝利を第一に目指すべきか { 目指すべきだ ・ 目指すべきではない }
- ③ 中学生に携帯電話は必要か { 必要である ・ 必要ではない }
- ④ 高校生のアルバイトを認めるべきか { 認めるべきだ ・ 認めるべきではない }
- ⑤ 成人年齢を 18 歳にすべきか { すべきだ ・ すべきではない }
- ⑥ 家庭から出るごみは、有料にすべきか { 有料すべきだ ・ 有料にすべきではない }
- ⑦ 電車の中の優先席はなくすべきか { なくすべきだ ・ なくすべきではない }
- ⑧ 死刑は必要か { 必要である ・ 必要でない }

* チームメンバー

[] チーム

* テーマ

{ } 側

* 主張の根拠を考えよう (よいところやメリットを中心に)

[メモ]

《根拠》

- ①
- ②
- ③

* 弱点を考えよう（相手はここをついてくるかも！・・・反論も考えておこう）

* 相手からの質問を予測しよう（答えも用意しよう）

* 相手側の根拠を推測しよう

①

②

③

* 相手側の弱点を考えよう（＝こっちのメリットになるかも！）

* 相手への質問事項を考えよう（こっちのメリットを主張できるように！）

<ディベートプログラム 台本例(論戦なし)>

()組 氏名()

1) ディベートの流れ・分担を確認しよう

<プログラム>

- ・ Aチーム側の立論 (2分)
- ・ Bチーム側の立論 (2分)
- ・ BチームからAチームへの反対質問 (5分)
　　<作戦タイム・・・1分>
- ・ AチームからBチームへの反対質問 (5分)
　　<作戦タイム・・・1分>
- ・ Aチーム最終弁論 (2分)
- ・ Bチーム最終弁論 (2分)
- ・ 判定および講評

2) 司会者台本

- ① 今日は「 (テーマ) 」という論題でディベートを行います。(A) チームは (氏名) さんで、(B) チームは (氏名) さんです。それではルールに従って始めます。最初に (A) チームの立論を始めてください。時間は2分です。
　　<Aチーム立論・2分>
- ② ありがとうございました。時間は () 分でした。では次に (B) チームの立論を始めてください。時間は同じく2分です。
　　<Bチーム立論・2分>
　　ありがとうございました。時間は () 分でした。ではこれから1分間の作戦タイムに入ります。両チームとも作戦を立ててください。判定者の皆さんは判定表の立論の欄に5点満点で点数を記入してください。
　　<作戦タイム・1分>
- ③ 作戦をやめてください。では (B) チームからの反対質問に移ります。時間は5分です。
　　<反対質問・5分>
- ④ 次に (A) チームからの反対質問に移ります。時間は5分です。
　　<反対質問・5分>
- ⑤ 時間です。ではこれから1分間の作戦タイムに入ります。判定者の皆さんは判定表の質問と答えの欄に5点満点で点数を記入してください。その後最終弁論に入ります。
　　<作戦タイム・1分>
- ⑥ 作戦をやめてください。ではこれから (A) チームの最終弁論に移ります。2分です。
　　どうぞ。
　　<最終弁論・2分>
- ⑦ ありがとうございました。時間は () 分でした。では続けて (B) チームの最終弁論を始めてください。2分です。
- ⑧ ありがとうございました。時間は () 分でした。それでは判定表に記入してください。
- ⑨ 判定をします。(A) チームの勝ちだと判定した人は手を挙げてください。
　　(B) チームの勝ちだと判定した人は手を挙げてください。

⑩ () 対 () で、() チームの勝ちです。先生に講評をお願いします。

3) 立論の言いかたの例

私たちが () を主張する根拠は3つあります。その第一は・・・、第二は・・・、第三は・・・です。

まず、第一の根拠についてご説明します。(その根拠を裏付ける資料や論理の説明)
もしこれを(相手の主張)の立場で考えるとどうなるでしょう。(相手の主張の問題点)
このような問題が生じてしまいます。

次に第二の根拠についてご説明します(第一の説明と同様)

最後に第三の根拠についてご説明します(同様)

以上の内容をもって、私たちの立論といたします。ありがとうございました。

<ディベート判定表(論戦なし)>

判定者 ()

*テーマ< >

	評価の基準	()派	()派
立論	① 話し方・態度・時間の使い方が適切か	点	点
	② 説得力のある話し方をしているか		
	③ 論理の筋道は通っているか		
反対質問	④ 質問が鋭く、相手の弱点を突いているか		
	⑤ 質問に対する答えが適切であるか		
	⑥ 資料やデータをうまく使っているか		
最終弁論	⑦ 全体を踏まえて結論をうまくまとめているか		
	⑧ 自分たちの意見をしっかりと主張できているか		
	⑨ 話し方・態度・時間の使い方が適切か		
その他	⑩ チームで協力してディベートを行っていたか		
	⑪ チームの中でみんな積極的に発言していたか		
	⑫ 不適切な発言・態度はなかったか(あれば減点)		
	合計	点	点
総合評価・コメント			

<ディベートプログラム 台本例(論戦あり)>

()組 氏名()

1) ディベートの流れ・分担を確認しよう

<プログラム>

- ・ Aチーム側の立論 (3分)
- ・ Bチーム側の立論 (3分)
 <作戦タイム・・・1分>
- ・ BチームからAチームへの反対質問 (5分)
- ・ AチームからBチームへの反対質問 (5分)
 <作戦タイム・・・1分>
- ・ 論戦 (10分)
 <作戦タイム・・・1分>
- ・ Aチーム最終弁論 (2分)
- ・ Bチーム最終弁論 (2分)
- ・ 判定および講評

2) 司会者台本

- ①今日は「 (テーマ) 」という論題でディベートを行います。(A) チームは(氏名)
さんで、(B) チームは(氏名)さんです。それではルールに従って始めます。最初に(A)
チームの立論を始めてください。時間は3分です。
 <Aチーム立論・3分>
- ②ありがとうございました。時間は()分でした。では次に(B) チームの立論を始めてく
ださい。時間は同じく3分です。
 <Bチーム立論・3分>
- ③ありがとうございました。時間は()分でした。ではこれから1分間の作戦タイムに入り
ます。両チームとも作戦を立ててください。判定者の皆さんは判定表の立論の欄に5点満点
で点数を記入してください。
 <作戦タイム・1分>
- ④作戦をやめてください。では(B) チームからの反対質問に移ります。時間は5分です。
 <反対質問・5分>
- ⑤次に(A) チームからの反対質問に移ります。時間は5分です。
 <反対質問・5分>
- ⑥時間です。1分間の作戦タイムに入ります。
 <作戦タイム・1分>
- ⑦ではこれから10分間の論戦に入ります。どちら側から質問してもかまいません。では始め
てください。
 <論戦・10分>
- ⑧時間です。ではこれから1分間の作戦タイムに入ります。判定者の皆さんは判定表の質問と
答えの欄に5点満点で点数を記入してください。その後最終弁論に入ります。
 <作戦タイム・1分>

⑨作戦をやめてください。ではこれから（A）チームの最終弁論に移ります。2分です。どうぞ。

<最終弁論・2分>

⑩ありがとうございました。時間は（ ）分でした。では続けて（B）チームの最終弁論を始めてください。2分です。

⑪ありがとうございました。時間は（ ）分でした。それでは判定表に記入してください。判定をします。

（A）チームの勝ちだと判定した人は手を挙げてください。

（B）チームの勝ちだと判定した人は手を挙げてください。

⑫（ ）対（ ）で、（ ）チームの勝ちです。先生に講評をお願いします。

3) 立論の言いかたの例

私たちが（ ）を主張する根拠は3つあります。その第一は・・・、第二は・・・、第三は・・・です。

まず、第一の根拠についてご説明します。（その根拠を裏付ける資料や論理の説明）もしこれを（相手の主張）の立場で考えるとどうなるでしょう。（相手の主張の問題点）このような問題が生じてしまいます。

次に第二の根拠についてご説明します（第一の説明と同様）

最後に第三の根拠についてご説明します（同様）

以上の内容をもって、私たちの立論といたします。ありがとうございました。

<ディベート準備カード>

年 組 班

テーマ	()
相手への 相手からの 質問	
回答	

<ディベート準備カード>

年 組 班

テーマ	()
相手への 相手からの 質問	
回答	

資料

< ティベートテーマ例 >

中学生向け

* 学校生活・身近な話題

- ・校内に飲料自販機を設置すべきか
- ・部活動は全員参加にすべきか
- ・制服は必要か
- ・中学生は大人料金を払うべきか
- ・中学生にケータイは必要か
- ・高校を義務教育にすべきか
- ・高校は入学試験をなくし、卒業試験を難しくするべきか
- ・日本の学校は9月スタートにすべきか
- ・土曜日も授業をすべきか
- ・部活動は勝利を第一に目指すべきか
- ・自転車通学を認めるべきか
- ・中学生は大人か
- ・個室（子ども部屋）は必要か
- ・高校生のアルバイトを認めるべきか

* 社会的な話題

- ・選択制夫婦別姓を導入すべきか
- ・救急車を有料にすべきか
- ・スーパーのレジ袋を有料にすべきか
- ・テレビは人間にとって有益か
- ・赤ちゃんポストは必要か
- ・高速道路を無料化すべきか
- ・裁判員制度は必要か
- ・時効は必要か
- ・未成年の犯罪者は実名報道すべきか
- ・代理出産を認めるべきか
- ・子どもの臓器移植を積極的に進めるべきか
- ・動物園を廃止すべきか
- ・家庭から出るゴミを有料にすべきか
- ・成人年齢を18歳にすべきか
- ・女性専用車は必要か
- ・コンビニは必要か
- ・子ども手当は必要か
- ・死刑は必要か
- ・14歳未満も逮捕すべきか
- ・新聞は必要か
- ・男性に育児休暇を義務化すべきか

小学生向け

* AかBか

- ・住むなら、北海道か沖縄か
- ・朝食は、パンかご飯か
- ・給食とお弁当のどちらがいいか
- ・使うならシャーペンか鉛筆か
- ・「ドラえもん」の主演は、のび太かドラえもんか
- ・小遣いは、定額制かお手伝いの報酬がよいか

* Yes or No

- ・教室の席を自由席にすべきか
- ・班は必要か
- ・小学生にケータイは必要か
- ・夏休みは必要か
- ・登校班は必要か
- ・掃除はみんなですべきか
- ・宿題は必要か
- ・小学校で英語の授業は必要か
- ・自転車通学を認めるべきか

お わ り に

教育研究所長 高木 俊樹

新学習指導要領では、「言語活動の充実」が重点課題の一つとなっており、その中でも、話したり聞いたりする力は、知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となっています。そして、子どもの社会性や豊かな人間性をはぐくむためには、小さいうちから系統的に、また体験的に学び、身につけていくことが大切であると考えます。

この冊子は「話す・聞く」活動に重点をおき作成いたしました。先生方の指導の一助になれば幸いです。教室の中で、積極的にコミュニケーションを図りながら、自分の気持ちを自由に表現したり、相手の気持ちを受け止めたりできる子どもたちがたくさん育つことを願っています。

編集・執筆者

小中一貫教育国語研究部会

松浦 勝 (北中学校教諭)
津田 美穂 (大根中学校教諭)
古閑 賢二 (鶴巻小学校教諭)
野村つぐみ (大根小学校教諭)

秦野市教育研究所

高木 俊樹 (所長)	石川 一郎 (兼任指導主事)
吉田 正也 (指導主事)	島津 絹子 (兼任指導主事)
山口 敦子 (指導主事)	桐生 幸子 (兼任指導主事)
安田 政敬 (指導員)	佐藤 直樹 (兼任指導主事)
	山口 昌男 (兼任指導主事)
	横山 潔 (兼任指導主事)
	古木 学 (兼任指導主事)

◇◇◇ 研究紀要 第78集 ◇◇◇

Let's challenge

楽しく 話そう!

発行日 平成23年3月31日

編集・発行 秦野市教育研究所

〒257-8501 秦野市桜町1-3-2

電話 0463-81-2125